

ストレス・抑うつ・不眠・集中力の停滞・不安などを改善

QOLを向上するカンナビジオール(CBD)

カンナビノイドとは大麻草に含まれる化学物質の総称。カンナビノイドの成分にはテトラヒドロカンナビノール(THC)とカンナビジオール(CBD)がありますが、日本の法律で禁じられているのは、精神に作用するTHCのみで、CBDは合法の成分です。世界保健機関(WHO)も2017年に「CBDは安全な成分である」と公式見解を発表しています。CBDは経口摂取や皮膚に塗布することで様々な効能を発揮する健康成分として、世界中で利用されています。

抗がん効果を発揮する大麻草成分

CBDは、大麻草に含まれる104種類のカンナビノイドのうち、薬理作用が最も高い成分です。

2011年、米国国立がん研究所が、大麻草に含まれるカンナビノイドに、がんを抑制する作用があることを発表しました。同研究所によればカンナビノイドにはがん細胞の増殖・血管新生・転移を抑制する働きや、がん細胞のアポトーシス(細胞が自ら死滅すること)への誘導などの働きがあり、それらが重なり合うことで優れた抗腫瘍作用を発揮するそうです。カンナビノイドはがん細胞を死滅させる一方、正常な細胞には影響を及ぼしません。抗がん剤と異なり身体への負担がないことから、がん治療において医療大麻を有効に取り入れている国も存在しています。加えて同研究所はがん以外の疾患につい

ても「医療大麻がもたらす効能は他にも吐き気の抑制作用、食欲増進作用、疼痛の緩和作用、睡眠改善作用などが挙げられ、これらの効果はがんに限らずほかの疾患にも有効」と言及しています。

WHOも認めるCBDの効果

2017年に発表されたWHO(世界保健機関)による「カンナビジオール事前審査報告書」によれば、「CBDの臨床使用はてんかん治療の分野で最も先進的に行われている」と紹介されています。同報告書にはほかに「酸化ストレス、炎症、神経性の疼痛、抑うつ、不眠、集中力の停滞、不安なども緩和する可能性がある」と疾患名が羅列されており、多岐にわたる効能が国際的にも知られるようになりました。

健康維持のサプリメントとして

各疾患の予防や緩和目的だけでなく、リラクゼーション効果のあるCBDをQOL(Quality of Life)生活の質)の向上や健康維持のサプリメントとして利用するユーザーも多く、経口から摂取出来るCBDを配合したオイルが国内外で数多く販売されています。

トップアスリートたちも愛用

2018年、世界アンチ・ドーピング機関(WADA)は、CBDを禁薬リストから除外しました。これによりCBDは全てのスポーツ競技のドーピング対象から外れて、現在では多くのトップアスリートたちが治療や身体のケアにCBDを使用していると公表しています。

日本アンチ・ドーピング機構のWEBサイトでも2020年禁止表国際基準が閲覧出来ます。ここにも「CBDは禁止されない」と明記されていますが、市販の製品の中にはTHCが含まれたものもあり、陽性反応が出る場合があるという注意書きがあります。私たちが健康習慣にCBDを取り入れる場合、きちんと材料や成分について明らかにしてくれる誠実な企業の製品を選ぶことが重要です。

明日へ昇る理由
rise and shine

organy
【ライズCBDオイル】
rise CBD OIL
CBD500mg 30mL

FLAVORS : フラドレング ミント レモン

国内製造 6,820円(税込)

株式会社 organy 東京都墨田区向島 3-22-2 ☎ 0800-800-5052 URL : organy-japan.com organy